

スポーツのチカラ まちのミライ

vol.16

2030北海道・札幌オリンピック・パラリンピック冬季競技大会が実現すると、私たちの街・札幌はどのような姿へと変貌を遂げるのでしょうか？
札幌市在住の絵本作家・ひだのかな代さんにお話を伺いました。



絵本作家・イラストレーター
ひだの かな代 さん

1960年、宮城県仙台市生まれ、3歳から北海道で育ち、2000年頃からイラストレーターとして各種メディアで活動。2004年、第8回新風舎絵本コンテスト大賞作「ねこがさかなをすきになったわけ」で絵本作家デビュー。講演やラジオパーソナリティなど多方面で活躍中。

取材協力：月虹山荘（NPO法人 猫と人を繋ぐ ツキネコ北海道）

ふるさとで開催されるオリパラの価値
子どもたちが未来への宝物を手に入れるチャンス

街全体が期待感にあふれた1972年大会
未来が輝いて見えたあの頃

1972年の札幌冬季オリンピック当時、私は小学5年生でした。開会式会場近くの小学校に通っていたことから、風船スケーターとして開会式に参加できる機会に恵まれました。当日のことは寒さと緊張とであまりよく覚えていないのですが、世界各国のトップアスリートたちの華やかな活躍や讃えあう姿は、子ども心にもまばゆく輝いて見えました。あの頃は、オリンピック開催に合わせて地下鉄が開通したり、新しい道路や建物、お店が次々と開業したりと、目まぐるしく街並みも変化していました。街全体が高揚感と期待感に包まれていて、まるで自分の未来までもキラキラと輝くように感じたものです。

地元開催だからこそ経験できるワクワク感
何かに夢中になる素晴らしさを肌で感じて

オリンピック・パラリンピックの魅力って、「子どもたちに夢を与えられること」に尽きると思うんです。長年ラジオのパーソナリティを務めていて、子どもをゲストに迎えて話を聞く機会も多いのですが、自分の好きなことを一生懸命やっている子は、本当にキラキラしています。2030年北海道・札幌冬季オリンピック・パラリンピックが開催されたら、子どもたちは夢に向かって努力する大切さや、何かに夢中になることの素晴らしさを直接肌で感じる事ができる。これは子どもたちにとって、一生の宝物になるはずです。かつて自分が経験したワクワク感を、地元の子どもたちにも経験してほしい。未来の宝物を手に入れるチャンス、用意してあげられたらうれしいですね。

問い合わせ先

札幌市スポーツ局招致推進部調整課 ☎011-211-3042



食や自然など多くの魅力に恵まれた
「笑顔になれる街」さっぽろをイメージしたロゴです

問い合わせ先

札幌市総務局広報部広報課 ☎011-211-2036